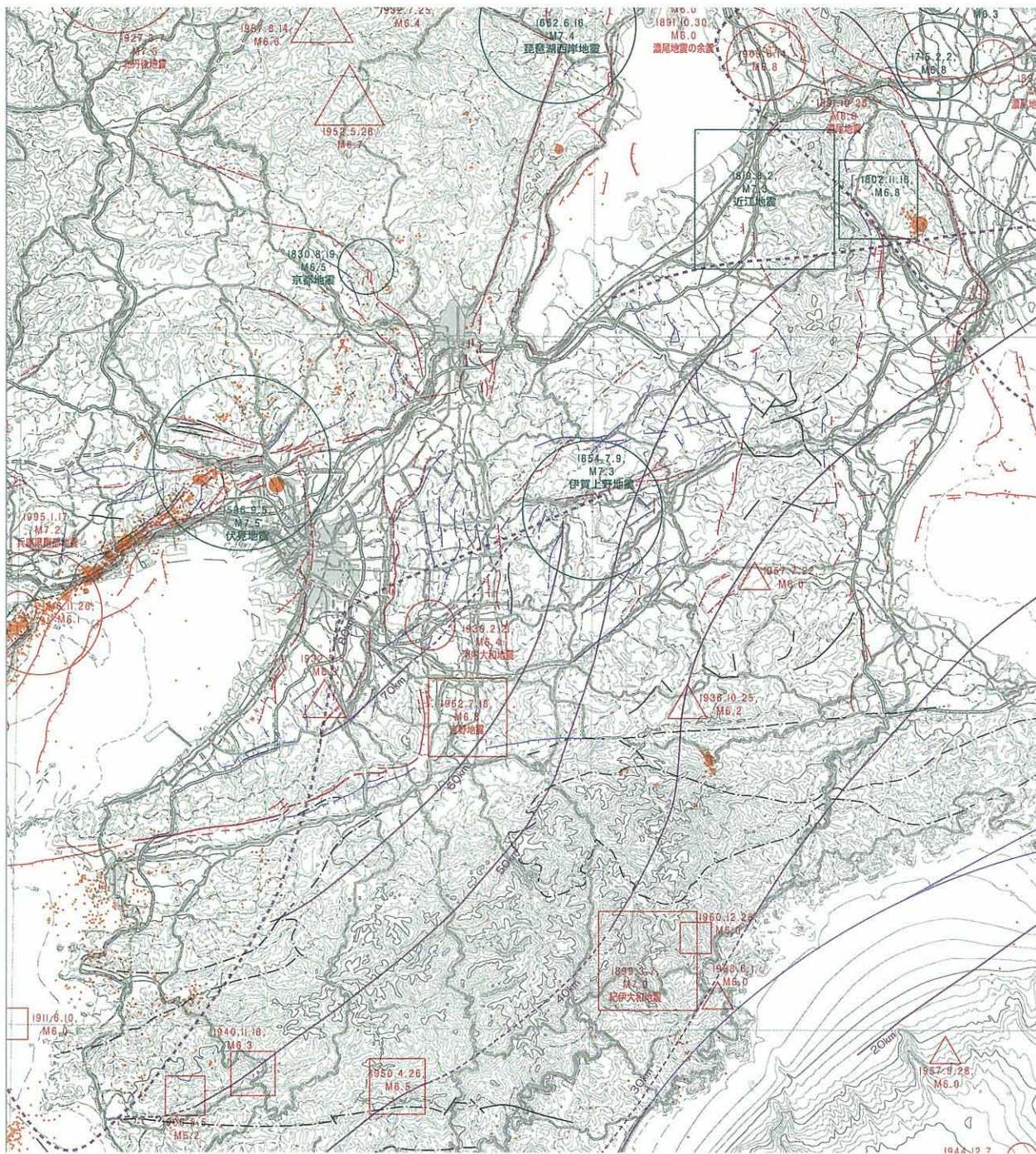


50万分の1活構造図「京都」(第2版)地震構造図



本図には、1995～1999年の微小地震(マグニチュード2.5～6)および16世紀以降の大地震(マグニチュード6以上)の震央を震源域の広さに比例する大きさの図形で表示した。オレンジ色の円が微小地震、赤色と緑色の中空き図形はそれぞれ1885年以降および1884年以前の大地震である。円、正方形、三角形はそれぞれ震源の深さが30km未満、30～100km、100km以上であることを示す。南海トラフ沿いの巨大地震の震源域は青色の楕円で近似して示した。また、フィリピン海プレートの上面を藤色の等深線で示した。

＜関口春子・佐竹健治・大井田 徹・片尾 浩・中村正夫＞